

せいけん
詩集

第百五十一篇

作：近藤せいけん

「四季 大山 その二」

秋の大山

秋風が田んぼを 渡り

赤とんぼ 稲の上に群

たわわに実った

黄金の稲 まぶしい

いわし雲 相模平野を飛び

空 天高く

大山は 秋景色

冬の大山

肌をさす 北風

凍れる 田んぼ路

人は襟を立て ポケットに

両手を入れ

足早に 歩く

遠く 大山は雪景色

